

		学校教育目標		中・長期的目標		
		1. 幅広い教養と専門的な知識・技術を身につけ、地域に貢献できる人材の育成 2. 豊かな人間性と創造力を持ち、主体性ある人間を育てる 3. いじめ・体罰・セクハラを起こさない安全・安心な学校作り		自ら学び行動することで共に生きることの大切さを知る生徒の育成 (自学・自立・共生)		
		今年度 重点目標	1 商業高校の特色を活かした教育活動の充実 2 地域と連携し貢献できる教育活動の推進 3 いじめ・体罰・セクハラを起こさない安全・安心な学校づくり			
分掌		活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価(成果と課題)	評価
教務係	総務・広報情報	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の円滑な運営を行う 開かれた学校づくりを推進する 学校評価により教育活動の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的業務の遂行(係・委員会・学年との連携) 緊急時の備え 情報メールの活用 内規の見直し 次年度年間行事予定表作成 開かれた学校づくりに関わる業務の円滑な遂行 学校評価の実施・集約・対応 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部署との連絡を密にし、各種行事等を円滑に遂行するための援助ができたか。 緊急時の備えを年度当初に完備し、活用できたか。 生徒・保護者・職員への情報発信が迅速かつ的確に行えたか。 内規の運用上の問題点の洗い出しと修正が的確にできたか。 授業時数の確保と、年度末反省を活かした年間行事予定表が作成できたか。 地域に対して本校の教育活動に関する情報をきちんと伝えられたか。 学校関係者評価を計画的に実施し、その結果を教育活動に活かされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部署と連携を深めるため、随時連絡を取り合った。これにより、各種行事等を円滑に行うことができた。 不測な状況下においても、「オクレンジャー」をおとして生徒・保護者への情報発信が的確に行えた。 「オクレンジャー」の新たな活用方法を検討する。 授業時間の確保を前提に、定期考査の回数減等行事の精選を図った。 中学生対象の公開授業を2回実施するなどの、情報発信に努めた。 計画的に実施することに努めた。 	B
	厚生	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の親睦をほかり、快適に業務の遂行がなされるような職場環境の雰囲気作りに努力する。 歓迎会及び送別会の企画運営が円滑に履行されるよう実施担当係と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画した行事への多数の参加 各行事の予算額の範囲内での実施 各行事の職員に及ぼす満足度。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画した行事への多数の参加が得られたか。 各行事の補助額の範囲内での実施調査と会計監査ができたか。 各行事の職員に及ぼす満足度の把握ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においては、研修会のみにとどまってしまった。 	B
生徒指導係		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権・人格を尊重し、自主的で民主的な資質と行動力の育成を図り、日常生活に即して社会性も養う。 基本的な生活習慣を身につけさせ、心身の健全な育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に関する指導 学校生活に関する指導 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の発生を防ぐ取り組みが実践できたか。(学校行事での取組や校舎内外の巡視指導など) 問題行動発生時における対処がスムーズに行えたか。(家庭連絡や校内連携など) 反省指導が効果的に行えたか。(時期・方法・回数など) 担任を中心とした、継続的指導ができたか。 学年・教科担当・係りなどの関わりが効果的に行えたか。 交通安全指導が効果的に行えたか。 情報モラルに関する指導ができたか。 服装、頭髪に関する指導が効果的に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、校舎内外の警備・巡視指導など計画通りできた。 問題行動発生時における対処がスムーズに行えた。 指導は効果的に行えた。 担任を中心 → 学年全体として、継続的指導にしたい。 学年・教科担当・係などの関わりを強化したい。 安曇野警察署交通課との連携により呼びかけ運動を行った(自転車へのヘルメット着用) 1学年対象に映像による交通安全指導を行った。 1学年対象に情報モラル研修を実施した。(安曇野警察署生安課) 重大なトラブルはなかったが、SNS上のトラブルについて職員研修が定期的な指導を継続していきたい。 女子スラックスの購入をさらに推奨していきたい。 制服のあり方は検討を継続する。(学校統合も視野に入れながら) 	B
		<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え自ら行動できる主体性を育て、生徒が活躍する活動を支援する。 全校生徒を巻き込んだ生徒会活動を心がけ、それをリードする役員にはリーダーとしての自覚形成を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主性を育てる指導 委員会活動の充実 他校生徒会との交流 地域との交流 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らの企画・運営について適切な助言・指導ができたか。 日常的活動がスムーズに行えるように助言・指導ができたか。 行事や委員会活動の根本的な意味や意義を考え実行できたか。 他校生徒会執行部などと交流の場を設けられたか。 穂高及び学校周辺の地域と交流の場を設けられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新役員研修会で生徒会スローガンを決めるところから始まり、生徒自身が考え、討論し、実行して反省を共有するという体制を築くことができた。 文化祭では、ウィズコロナのため企画や運営に難しさを感じながらも、感染対策を十分に検討・実施し、大半の生徒が満足する穂高祭を開催することができた。文化祭の意義について、生徒会役員を中心に討論を重ね、感染対策等で実施形態が変更になることもあったが、委員会顧問の先生方の協力のおかげで、予定された行事をほぼ行うことができた。 週1回の本部会を継続でき、議事進行のルールに則った運営をすることができた。また、顧問も側面から生徒の活動を支援することができた。 各行事や活動の意義に関する討議の場を多く設けることによって、生徒主体の学校作りを意識付けすることができた。各委員会がより活発に活動できるよう、助言・指導していきたい。 他の行事と重なり、他校との交流を行うことができなかった。来年度は交流の機会が増えることが考えられるので、積極的に参加していきたい。 新役員による穂高神社神竹灯への協力ができ、地域との交流を意識する良い機会となった。 	B

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	評価	
進路指導係	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を緊密にとりながら、生徒一人ひとりの進路意識の向上を図る。 生徒一人ひとりに対してきめ細かく丁寧な進路指導を行うと同時に、専門課程高校の特色を活かした進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸団体と緊密な連携を図り、進路指導上必要と思われる情報の収集・管理・提供を的確に行う。 生徒の自主的な進路選択が可能となるように必要かつ有意義のあるタイムリーな情報提供を行い生徒一人ひとりに対する万全のサポート体制をつくりあげる。 専門課程高校の特色を活かした進路指導の研究および実践を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸団体との連携を図りつつ、進路指導上必要な情報収集・情報提供を行うことができたか。また適切な情報管理がなされたか。 大学・短期大学・専門学校等の教育内容や公開授業、選抜方法等に関する情報を適切に提供することができたか。 各事業所の求人情報を迅速に収集し、受験希望企業の決定に有意義のある情報を提供することができたか。 生徒の進路希望状況を学年スタッフと共有し、進路実現のための協働的なサポート体制を構築することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業のタイムリーな求人情報を提供し、職場見学の企業を選定する際に役立たせることができた。 大学・短大・専門学校各校の特色、教育内容、進路実績等につき学校担当者との面談で情報を収集し、希望生徒や保護者に少しでもタイムリーな情報を提供する努力はしたが、もう少し細部を検討し次年度に生かしたい。 昨年の反省から大学・短大の出願に関してのガイダンスを実施することができた。 生徒一人ひとりが自主的な進路決定を行うことができるように、個々の生徒に対し細密かつ丁寧な対応を心がけてきた。 学年担当の進路係が中心となりコロナ禍ではあったが、予定していた学年の進路行事はすべて行うことができた。 生徒が資料をゆっくり見ることができる環境の実現を模索したい。 	B	
人権・図書視聴覚係	平和・教育・人権	<ul style="list-style-type: none"> 「人間」を尊重し、相互に思いやる心を育てる。 「平和」と「公正」を愛し、民主的な社会の建設に積極的に関わっていくことのできる人間の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権についての知的理解を深め、不当な差別や矛盾に気づく力。 思いやりの心や連帯感、人権を大切にす精神。 平和的・民主的な手続きによる問題解決。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある様々な事例から不当な差別や社会的矛盾に気づく力がついたか。 思いやりの心や連帯感が身についたか。人権を大切にす態度が身についたか。 平和的・民主的な手続きによる問題解決ができるようになったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権をないがしろにした様々な社会的事件や学校での出来事を具体的に授業やHR等で取り上げることで、不当な差別等を気づかせる力を養うことができた。 各教科の授業のなかで問題提起や、日々の生活及び判別行動やクラス作りを通して意識を高めることができた。 人権にかかわる映画鑑賞を通して間接的な疑似体験とともに個々の問題として平和について深く考えさせることができた。 	B
	図書館	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の教科学習の充実のため、また各個人の知的興味や感性を高めるために図書館資料の整備・充実を図る。 職員等の教科指導等に役立つよう、館内の環境や図書資料の整備を図る。 生徒の利用指導及び読書指導の充実を図る。 図書委員活動の自主的・積極的活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望図書を把握し、資料の充実・整備につとめる。 教科指導に役立つ資料を整備・提供し、授業での図書館利用を促進する。 定期的な情報を発信し、図書館利用を促す。 図書委員の活動や読書仲間間の行事企画の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 館内整備を計画的に行えたか。 資料の収集、整理が適切に行えたか。 授業で図書館は積極的に利用されたか。 来館者数、本の貸し出し数等、活発に利用されたか。 マナーを守って利用できたか。 図書委員の活動は、計画的に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒からのリクエスト本がなかった為、「探究」を意識したものや教育活動に役立つ選書を行った。 耐震固定がされていなかった書架の整備を行った。 年度当初の計画に沿って購入・除籍を進めた。 係として資料の整備・提供は試みたが、授業での利用はほとんどされなかった。授業の中で図書館を活用してもらうような手立てを考えていきたい。 新着本やおすすめ本を入口外に並べ紹介するなどの広報活動に努めた。 読書旬間（朝読書）について、どのような朝読書を目指すかを職員会議で検討し意識の統一をはかることができた。また振り返りをしっかりと行い、次年度の検討事項を明らかにすることができた。 図書館だより（リー플）の発行やクリスマスイベントなどを企画し実施することができた。 今年度は安曇野支部のSLA事務局が本校にあり、支部活動として図書委員交流会の企画とオンラインでの実施を計画的に行うことができた。 	B
	視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機材を通して学習への意欲・関心を高める。 芸術鑑賞を楽しみ、感性と感覚を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな視聴覚機材を利用する。 芸術鑑賞行事の円滑な運営 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機材の使用により興味・関心は高まったか。 芸術鑑賞行事が、生徒の情操を涵養することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材の活用については、ICT整備が進み充実してきたが、所々でトラブルがあるので今後検討し解決に至るよう努力する。 新型コロナウイルスの感染拡大により、学校毎での開催となった。本校では体育館で学年・クラスを分割し、2回公演を行った。来年度は、従来通りホールでの鑑賞となる見込みである。 	B
保健衛生係	保健	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防の知識を身に付け、予防行動ができるようになる。また、コロナウイルス感染症の早期発見早期対応を行う。感染症にかかってしまった生徒が差別やいじめを受けないよう気を配る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導 健康相談 保健室経営 保健組織活動 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防に向けた指導の充実が図れたか。 生徒の健康変化に気づき、対応できたか。 心の健康に関する支援体制の充実が図れたか。 感染症にかかってしまった生徒がいじめにあわないよう活動できたか。 校内の職員や郊外の専門職との連携を図り、組織的に活動することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のためCithへの情報提供などを行い、教職員の協力を得ながら対策をとることができた。また、関係外部機関への報告、連絡、相談を実施した。 生徒の健康変化に気づき、対応するよう努めた。 心の健康への支援体制や感染症対策として校内外との連携を図り、組織的に活動することができた。 感染症にかかわるいじめについては生徒が自らいけないことであるという認識を持つことができた。 	B
	清美化	<ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献できる学校づくりのため、学校周辺の美化活動に努める。 心を育む時間大切に、掃除を通し「気づき力」を学ばせ 日々「美しい環境」で過ごす習慣を身につける。 落ち着いて授業に集中できる環境づくりを目指す。 見えないところで頑張る！「掃除から心育み成長へと導く」 	<ul style="list-style-type: none"> クリーンキャンペーン（美化活動）実施の提案 文化祭での清掃活動 日常の清掃活動の取組状況 ゴミの分別状況 大掃除の徹底 清潔作業当番活動 	<ul style="list-style-type: none"> 徳高駅・役場・神社等の公共施設の美化活動ができたか。 学習環境の美化に貢献できたか。 生徒の学校設備に対する「大切に使う・きれいに使用する」という意識を育て、積極的に日常の清掃に取り組ませることができたか。 日常のゴミの分別が適切に行われているか。 委員自ら自主的に計画行動に移せたか 	<ul style="list-style-type: none"> PTA保護者と共に1年生清整委員で、クリーンキャンペーン実施、駅・公園・神社・通学路・校舎内外の美化活動数年ぶりに実施できた。 月例大掃除毎月実施、全館水モップ拭き掃除も実施できた。 プリント・放送・委員自らの作業姿勢行動で全校への意識向上促し、掃除への認識高め積極的に取り組む姿勢が持てるよう努力した。 学校「美しく整えよう」全校皆がごみ分別・処理を心がけられるよう工夫活動に取り組み、前進できる活発な活動を目指したい。 	B
	学校安全	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から災害非常時における意識の喚起と高揚 避難等の周知徹底 冬期ストーブの安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 避難対策 安全生命確保 正しい消火器使用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員共に非常時における対応など意識の高まりは見られたか。 避難訓練、消火器の実技訓練等を通じ、生徒職員の防災意識の向上が計られたか。 冬期のストーブ使用が正しく安全に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から1年生単独の避難訓練はクラス毎のビデオ視聴で行った。 秋の避難訓練も実際の避難は行えず、避難の手順を放送にて確認した。 防火団編成表および部室棟の防火責任者は実情にそぐわないので再考が必要。 冬期のストーブ使用については組織的に安全確認を行えた。 	C

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価(成果と課題)	評価	
渉外係	PTA	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と教職員の連携・連絡を密にして、「生徒の成長」というPTA共通の願いの実現をめざす。 専門部会の活動は、できうる範囲での充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA諸行事の充実 対外的なPTA行事への参加(中信、県、北信越、全国の高P連研究会など) 	<ul style="list-style-type: none"> PTA諸行事を円滑に運営し、充実を図れたか。 諸会合の内容を会員に伝達・広報することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響から実施できた活動は駅周辺の校外巡視や清掃活動などに限られたが、理事会・PTA総会などは行うことができた。対外的な集会なども役員にお願いをして参加いただいた。来年度も例年通りに実施予定だが、状況が変わらなければ可能な範囲で活動ができばよいと思われる。 	B
	同窓会	<ul style="list-style-type: none"> 会員相互の親睦 母校の発展と地域社会の文化の向上発展に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会諸行事の充実 5月 同窓会理事会及び同窓会総会(本年度中止) 8月 同窓会支部対抗親善ソフトボール大会 3月 同窓会入会式 5・8・10月 総商あづみ野会ゴルフコンペ 同窓会報の発行など 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会諸行事・諸活動が充実して会員相互の親睦が深まったか。 同窓会活動の見直し改革が行われ活性化がされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、諸活動に制限があったが可能な限り会員相互の親睦を深めた。 同窓会報を発刊することができた。 会長の計報により、急遽会長代理を立て同窓会活動を維持した。 	B
教育相談係	生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 各学年から報告される要支援生徒の把握と職員間、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携を図る。 年2回の生徒支援面談などを通して、いじめ等の早期発見・支援を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回、生徒支援面談を計画的に実施し、生徒の状況把握に努める。 欠席が長期にわたった生徒の協議を行う。 各クラス担任と連携し、SCを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒支援面談を計画的かつ有効に実施できたか。 各部署と連携をとりながら適切に生徒支援が行えたか。 SCの活用は適切かつ十分であったか。 諸活動を通して、安心安全な学校作りへ寄与できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談週間を年二回ともに実施。効果はあった。基本的にはこのままでよいが、本年度利用したアセスについては、アンケート集計の時間確保が困難であり、面談にあわせる必要はかならずしもないと感じた。しかしながら、アンケート結果によれば「アセスを面談に利用できた」という回答が75%をしめるため、アセスを取りやめるのであれば代替のアンケートを利用することが望ましい。 アセスの実施については面談週間とは別に6月、9月の実施ではどうか。また、他アンケートに「8月面談週間の意思統一のため、夏休み明けすぐに職員会議を持ってほしい」との意見があった。 各学年からの報告に基づいて週に一度の会議をもってきたが、生徒の把握についてはかなり出来たと思う。 本年度のカウンセリングについては滞りなく行えた。学校の現状に対してスクールカウンセリングの実施数が極端に少ないという面もあった。 スクールカウンセリングの意味や意義をサービスの提供側として考える時間と教員への周知が必要か。 安全安心な学校づくりに寄与できた。 	B
	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の見直し 次年度科目選択調査の実施と講座数の調整 新学習指導要領における学習評価の研究 産学官連携のあり方検討 	<ul style="list-style-type: none"> 本校のランドデザインを踏まえ、生徒および保護者、地域の願いを実現できる教育課程の検討。 学習目標、コース目標に沿った教育課程の検討。 科目選択ガイダンスの実施、講座数の検討と調整。 学習評価の妥当性や信頼性を高める研究。 産学官連携の組織体制見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育課程編成・実施方針(CP)に即した教育課程であるか。 学習目標、コース目標に沿った教育課程編成となっているか。 生徒一人ひとりの進路希望や興味・関心に繋がる科目選択となっているか。 生徒、保護者に学習評価の方針が共有できたか。 産学官連携がより効果的に機能する体制となったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒育成方針(DP)に基づき、教育課程編成・実施方針(CP)の作成を行った。「ビジネスを探究する学校」を目指し、3つのコースを設定し、学習目標、コース目標に沿った教育課程の検討を行った。 科目選択ガイダンスを行ったのち、希望調査を実施し、調整のうえ、進路希望や興味関心につながる科目選択となった。 観点別学習評価についての職員研修会の実施、学期ごとの学習評価に関するアンケート実施から本校の学習評価に関する課題を見つけ、継続研究を行っている。保護者懇談会で、生徒・保護者に学習評価について説明し、共有を図ることができた。 産学官連携の組織体制の見直しについては、今年度実施することができなかった。R5年度中には、連携が効果的に機能する体制とすべく早期から動き出すよう申し送りたい。 	B
委員 予 算 会	<ul style="list-style-type: none"> 必要な備品の購入 適正な需要費の配分 施設・設備の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保と教育効果 	<ul style="list-style-type: none"> 購入されたものが、教育上・安全上必要なものであり、有効に活用されたか。 各係・委員会等の実情に応じて適正に配分ができたか。 施設・設備の有効活用が図られたか。 			
委員 学 校 保 健 会	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大予防 校内保健組織を核とした組織的な運営と活動 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、保護者及び校内組織との連携 学校医、学校歯科医、学校薬剤師等の専門家との連携 地域の機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の職員、校外の関係各機関と連携をとり、協力しながら学校保健活動を推進することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の職員、校外の関係各機関と連携を取りながら、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じ、学校保健活動を実施した。 	B	
衛生 学 校 安 全 委 員 会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員の健康に関する支援 普通救命講習会の計画・実施(2~3年毎) 学校生活を安全に送れるための支援 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の健康診断およびストレスチェックの実施 校内危険個所の点検 熱中症対策 普通救命講習会の計画および実施 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断およびストレスチェックの実施状況を把握できたか。 校内危険個所の改善はできたか。 熱中症対策ができたか。 普通救命講習会が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通救命講習会はコロナ感染レベルの上昇により実施できなかった。その他の項目については計画どおり実施できた。 	B	
運営 学 校 評 議 員 会	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動や学校運営について、外部の方から幅広く意見を聴き、その支援・協力を得て開かれた特色ある学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会の円滑な運営 学校運営、教育活動の説明 評議員からの意見聴取及び学校関係者評価の実施・集約 	<ul style="list-style-type: none"> 評議員会の充実と円滑な運営ができたか。 学校教育目標、重点目標達成のための教育実践について理解が得られたか。 本会での意見・要望に対して適切な対応がとれたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回及び第3回の会議は、多参集で開催できた。対面だからこそ可能な意見交流ができた。 「ビジネスで探究する高校へのアップデート」について説明する機会が得られ、これまでの実践への評価とともに課題について、提言をいただくことができ、校内議論に繋がった。 	B	

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価(成果と課題)	評価
入試委員会	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜の選抜方法の検討 新たな入学者選抜制度導入に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> 前期選抜方法の研究と改善 募集の観点に沿った志願者の確保 本校の特色を生かした令和7年度入試に向けた内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 選抜方法の内部基準を見直し、本校の求める人材確保のための適正な合否判定ができたか。 「募集の観点について」中学校・中学生・保護者等に正しい理解が得られたか。 新たに導入される前期選抜の学力検査傾斜配点や後期選抜の面接等についての検討が進んだか。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の内部基準の課題を踏まえ、前期選抜の実質的な見直しを行った概ね問題なく選抜が実施できた。今年度の結果を次年度検討し、内部基準の見直しを行う。 令和7年度からの新たな入学者選抜制度導入に向け、本校の特色を生かした制度導入について前期選抜60%の方針は県に報告したが、後期選抜の傾斜配点等については次年度継続審議する。 次年度は募集の観点を1・2に分けずに統一する方向性で申し送る。 	B
キャリア教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが社会を広く知り、社会とのかかわりの中で自己を確立し、社会で生きる基礎的な力を養う。 将来の職業選択へのきっかけをつかむ機会にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験など自己のあり方生き方を考えさせる機会を設定し、自らの将来設計に対する積極的な姿勢を醸成し、社会参画の意識を涵養する。 社会人として自立することができる力量を育む。 実践的な学習や体験を通じ、望ましい勤労観や職業観を持つことができるような指導を心掛け、さらに将来の職業を前向きに考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自己のあり方を考え、社会への関心を持って課題発見や調査・分析することができるような学習の時間を設定しているか。 生徒に地域や社会とのつながりを意識させ、毎日の学習が社会で生きることとに繋がると実感させることができているか。 さまざまな機会を通して、企業や大学との連携のあり方を研究し、生徒に自らの進路を選択させ長期的な将来設計を行わせる上での最適な素材を提供しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年生対象の就業体験は、地元企業の協力があり、夏休み前半に無事に実施することができた。新たな体験先からも許諾いただき、他校生徒と重なる実施もあったが、直前になってコロナを理由に実施見送りとなった職場もあった。しかし、本校の卒業生が担当者で実施の快諾をいただけた職場もあり、本校の人材育成の歩みを感じることができた。 キャリアパスポートは学年の先生方のお世話になり有難かった。過去を振り返るシートや卒業まで見通したシートは大切だと考えている。 進路説明会や事業所説明会など、学年や進路指導係が主となって計画や実施をしていただきお世話になった。将来の職業を考える参考となるので、とても有意義な機会になっていた。 	B
小論文指導委員	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路希望を実現する支援の一環として、自己表現の手段としての小論文技術を向上させる。 進路決定につながる個に応じた指導を行うため、進路指導係・各学年・各教科と連携し生徒の情報を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文・小論文指導による自己表現力を育成し、進路希望の実現につなげる。 生徒の進路実現に向け、係間・職員間の連携をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己表現力を高める文章指導を行えたか。 進路指導係・各学年・各教科・図書館と連携し、生徒の多様な進路希望に応える指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年での継続指導や各教科授業内での指導に加え、3学年では進学希望生徒に担当職員を分担し小論文や面接の指導を行った。生徒の自主性に任せる部分も多く、指導の徹底という点では課題も残った。また、文章力や小論文技術の向上には一年次からの長期的かつ継続的な指導が必要で担当の振り振りなど、進路係の協力により進めることができた。次年度より進路指導部の業務となるため、より学年・係と連携を図る必要がある。就職支援員の活用も検討したい。 	B
強歩委員	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の自然に親しみながら、体力の向上と健全な心身を養うとともに、自己の限界に挑戦する。 交通マナーを守り、完走・完歩を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上と健全な心身の育成 交通ルール等規範意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が、自己の限界に挑戦しながら、体力向上と心身の育成に取り組むことができたか。 交通社会に生活する一員として、交通マナーやルールを遵守することができたか。 	雨天により中止	C
3学年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが希望する進路を実現できるよう指導・支援する。 基本的な生活習慣の確立と良識ある社会人として力を備えて卒業できるように指導・支援する。 学校の特徴を理解し、それを活かしながら学力(学力・資格取得等)をつけるように指導・支援する。 精神的な自立を目指し、適切な人間関係が築けるように指導・支援する。 行事や生徒会活動を通して活動的なクラス・学年集団作りをする。 狭い社会集団(学校のグループ、クラス、学年)だけでなく、地域・社会への関心を持てるように指導・支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが各自の進路実現に向けて計画を立て、進路目標に向けて自主的に取り組むことができる。 資格試験や模擬試験など、さらには様々な学校行事への積極的な参加ができる。 クラス、学年、クラブ、委員会などの活動の中でさまざまな人と関わり、コミュニケーションをとりながら行動する。 個々の人間関係から、地域の課題、人権などの社会の課題にまで関心を持つようになる。 3年生(最上級生)であることを自覚し、さまざまな活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な資料・機会を準備し、進路実現に向けて意欲を引き出し、進路希望を実現することができたか。 生徒理解、生徒への指導・働きかけが適切にできたか。 生徒の意識を高められたか。 さまざまな場面で適切な指導ができたか。 生徒の微妙な変化に気がつき、対応ができたか。 適切な働きかけ、機会の提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会を中心に、各クラスや個々の生徒についての情報を共有することで、該当生徒への対応を適切に行えるようになった。 三者懇談や個別面談を通して、進路に関する情報共有や意識づけを大切に言い、具体的な進路実現に繋げることができた。 コロナ禍における制約の中、総商祭では担当の先生方のご指導のもと、リーダーシップを発揮することができた。 総商マーケットは、三年ぶりに一般公開を行い、地元のお客様を中心に大勢お越しいただき、盛大に行うことができた。 クラスマッチや合唱コンクールなどクラスや学年の団結を強め、最高学年としての自覚を持ち、学校全体を盛り上げることができた。 	B
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校における基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いた生活基盤の上に授業に向かう姿勢を身につける。 生徒間で適切な人間関係が構築できようにする。 将来を見据えた進路実現をめざして、適切な進路指導を行う。 2年生としての立場を理解し、生徒会、総商マーケット、修学旅行など学校行事へ積極的に参加できるようにする。 行事や生徒会活動を活かした、クラス・学年集団作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の様子、諸行事に対する姿勢や行動。 日常の授業へ向かう姿勢。 提出物の状況。 将来の仕事、就職、進学を意識した資格取得を計画。 適切な目標設定と適切な3年次の科目選択。 ガイダンス・インターンシップへの積極的な参加。 クラス、学年、クラブ、委員会などの活動の中で様々な人と関わり、コミュニケーションをとりながら行動する。 総商祭や総商マーケット、修学旅行に積極的に参加し行事を成功させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解、生徒への指導、働きかけが適切にできたか、生徒の意識が高められたか。 適切な資料、機会を準備し、働きかけができたか。 商業科と連携して適切な検定取得の目標を設定して取り組ませることができたか。 さまざまな場面で適切な指導ができたか。 生徒の微妙な変化に気がつき、対応ができたか。 適切な働きかけ、機会の提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談週間においては、クラスの生徒の状況を把握・相談を受ける良い機会となった。保護者とも連携し、積極かつ柔軟な指導を行った。担任が一人で抱え込まず、担任会、学年会議などで情報を共有し指導することができた。 進路希望調査、進路ガイダンスなどを進路指導係と連携して実施した。業者テストやインターンシップへの参加、保護者懇談会などの場面で、生徒の意識を高めるよう努めた。3年次に向けより積極的な指導が必要である。検定の合格に向け補習などに積極的に参加し、努力すること。 コロナ禍ではあったものの、クラスマッチや総商祭、総商マーケット、修学旅行、合唱コンクールなどの行事で、生徒が自主性を発揮し、指導力を養うことができた。生徒会役員選挙において、生徒が学校の主役になれるよう、積極的な議論を盛り上げることができた。 	B

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	評価
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合商業高校生としての基本的な生活習慣・学習習慣を身につけさせる。 ・ 生徒が希望する進路実現をめざして、計画的な進路指導を行う。自己を理解し、自分の将来の目標に向かって努力できるようにする。 ・ 生徒が安心かつ安全に学校生活を送り、適切な人間関係が構築できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校則や時間、提出期限等を守る意識の育成。 ・ 他者の話を傾聴する態度の育成。 ・ 授業や資格取得に対する主体的な取り組みの促進。 ・ 自己を理解し、進路を意識した科目選択や資格取得への主体的な取り組み。 ・ 情報収集・進路ガイダンス等への目的意識を持った積極的参加。 ・ 学級、学年、部活動、委員会などさまざまな活動への意欲的・積極的な参加。 ・ 情報モラルの向上。 ・ 自発的な健康管理や衛生観念の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常に生徒やクラスの状態を把握して、SHRや面談などを通して、適切な指導を行うことができたか。保護者との連携はできたか。 ・ 朝学習を計画的に実施できたか。 ・ 商業科と連携して、検定取得に取り組ませることができたか。 ・ 進路学習やキャリア学習の機会や資料を準備し、計画的に働きかけができたか。 ・ キャリアパスポートを用いて定期的に学校生活を振り返り、自己理解、進路への意識を高めることができたか。 ・ 生徒の状況を把握するための有効な個人面談が実施できたか。また、把握した状況に対して適切な対応ができたか。 ・ スマートフォンやタブレットの利用における指導は適切であったか。 ・ 健康や衛生に関する意識を向上できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SHRや面談週間において、各教科担任や相談室と連携を取り、生徒の心身の状況を学年団で共有し迅速な対応をすることができた。保護者懇談や日頃から保護者との連携を密にして、生徒の成長につなげることができた。 ・ 朝学習では、各教科から授業に即した教材を準備していただき、学習意欲の向上に繋げることができた。 ・ 感染症による休校が少なかったためか、検定取得率は向上した。上位級の取得に向けて、商業科と連携して来年度以降の補習など計画的に進めたい。 ・ 9月実施の職業ガイダンスや12月実施の職業体験では、事業所や学校の先生方に来校していただき、現実味のある話や体験をすることができ、進路への意識を高める良い機会になった。 ・ キャリアパスポートによる振り返りを定期的にやっているが、タブレットを用いて日常的に入力することも検討していきたい。 ・ 生徒会行事や徳商マーケットが予定どおり実施されたことで、生徒同士の協力関係も生まれ、来年度に向けて意欲的な様子も見られる。 ・ タブレットを日常的に使用する習慣がまだできておらず今後の課題である。マナーについては、スマートフォンの使用制限とあわせ、生徒に考えさせることも必要と考える。 ・ 感染症対策のための換気等や衛生管理については、保健委員会・清整委員会を中心に取り組みを行えた。 	B
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの文章に触れることにより、人間や社会に対しての関心を深める。 ・ 進路実現やこれからの実社会の生活において、的確かつ効果的な表現能力を身につける。 ・ 希望する進路実現ができるよう学力を伸ばし、表現能力（書く・話す）を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・理解 ・ 関心・意欲・態度 ・ 表現・思考・判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容・方法についての研究が充分図られたか。 ・ 生徒の実態に即した主体的・対話的な授業展開ができたか。 ・ 現代社会に即した学びを深めることができる授業内容だったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎知識の定着を重点に多くの作品に触れることができた。特に、教育課程施行初年度として新科目の実践について研究することができた。授業内容や方法、評価については生徒の様子をみながら研究・検討を続けていく必要がある。 ・ 教科書の学習内容から調べ学習やグループ活動、発表につなげ、主体的な学びを促すことができた。授業中に加え、振り返りシートからも生徒の質問や疑問を掘り上げ丁寧な対応ができた。授業形態などに工夫も試みているが、意欲傾向の生徒の対応には課題が残る。 ・ 新聞の活用や課題設定学習の機会を設け、社会に目を向け身近な問題として捉えさせることができた。定期考査にも自身の考えや意見を記述する問題を取り入れた。今後も文章で表現する時間を積極的に設けた。 	B
地歴公民科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主権者として必要とされる社会認識の力を育てる。 ・ 授業を工夫し、生徒自身が考え、発信できる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に関する関心・意欲 ・ 知識・理解 ・ 言語活動、資料活用能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的な出来事に興味関心を持たせ、自分の考えをまとも表現する力を養えたか。 ・ 生徒の実態に即した授業内容を精選し、知識理解を深めさせることができたか。 ・ 講義、対話、グループ演習、討論などの授業方法を工夫し、生徒の能動的な活動を支援できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロシアによるウクライナ侵攻を例にして、戦争の原因や残酷さを教えることができた。平和の大切について、さらに考えさせたい。参議院選挙も、政治への関心を高める機会となった。 ・ 生徒に質問し考えさせたり、生徒が自分の意見を表明する機会を増やした。他の生徒の意見によって、自分の意見を深めるような機会を作していきたい。 ・ グループ演習や討論については、授業時間の問題があり、十分に取組めたとはいえない。授業内容を精選して、授業時間を確保する必要がある。 	B
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな人生を送るために必要な教養を身につける。 ・ 論理的な思考や創造力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心・意欲・態度 ・ 数学的な見方や考え方 ・ 表現、処理 ・ 知識、理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心・意欲・態度が身に付いたか。 ・ 数学的な見方や考え方ができるようになったか。 ・ 表現、処理ができるようになったか。 ・ 知識、理解が深まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の様子を見ながら、疑問点等に対応し、身近な問題として感じられるよう出題を心掛けた。しかしながら理解に苦しむ生徒も見られた。 ・ 授業を計画に沿って教科書通り進めることはできた。ただし、中学までの内容や高校の内容の修得には個人差があり、授業の進行に工夫を必要とした。 ・ 身の回りに関連する事象や数学の歴史、他教科に関連する例を示しながら、数学的な見方や考え方ができるよう授業を進めた。 ・ 読みやすく要点をまとめる板書と、書き留め理解するための時間配分を心がけて、授業に余裕をもたせた。 ・ 基礎の知識習得を目指し、定期試験・補習・課題で確認した。特に1年は観点別評価を研究し、適正な評価に近づける試みができた。だが、補習と課題提出の完了には時間を要した。 	B

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価（成果と課題）	評価	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と自然との関わりについての認識を深める。 ・実験・議論を通して、自然科学に対する総合的な見方・考え方を養う。 ・自然の事物・現象に関する関心・理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能 ・思考力・判断力・表現力 ・主体的に学習に取り組む態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学分野の知識・理解が身についているかどうか。 ・科学的な物の見方・考え方をすることができるかどうか。 ・自分の意見の表現・多様な意見の処理ができるかどうか。 ・自然科学への関心・意欲・態度はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートより、授業内容を理解できた生徒が多かった。定期考査の平均点はおおそ想定範囲内であったが、単元によってはやや知識の定着が難しかった。生徒が苦手とする単元の理解をより深めるような授業を工夫したい。 ・コロナ禍で満足な実験を実施することが難しかったが、授業での発問や問題集の演習などにより、科学的な物の見方・考え方はある程度身についた。科学と人間生活では実験やレポート課題などにより、自分の考えをまとめ、表現できた。新課程の内容に基づいた、科学的な考え方を伸ばす指導を工夫したい。 ・授業アンケートより、授業内容に興味を持って臨んだ生徒が多かった。身近な事象を新課程の授業内容に関連付けながら、より興味・関心を深める工夫をしたい。 	B	
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上とスポーツを通して人間性・社会性を高める。 ・心身の調和のとれた発育・発達を目指し、心と体を一体としてとらえた学習指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度 ・思考・判断 ・運動の技能 ・知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで仲間と協力して授業に取り組むことができたか。 ・ルールを守り、公正に態度でゲームに取り組むことができたか。 ・基本的な技能をゲームで生かすことができたか。 ・運動の必要性・健康の大切さを理解できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育に関して好き嫌いはあるものの準備、片付け等を協力して行うことによりその種目に関心を持ち、積極的に授業に参加することができた。 ・ルールを守ることがけがや故障の防止になることが理解できた。 ・技能の上達という面では運動欲求が強い生徒が減ってきていると感じる。できる生徒とそうでない生徒の格差が大きく、特に集団スポーツの展開が課題である。 ・講座の編成（2クラス同時）ができ、男子生徒にとってはゲーム形式の授業で十分な効果が得られた。 ・必要性は理解しているが自分のものとして実践までは至っていない。 ・生涯体育への意識づけが課題。 ・本年度より種目選択授業を実施した。今まで受け身の授業をしてきた生徒にとっては、自主的な計画・実施・評価は戸惑うことが多かった。科としては支援の方法を検討していく。 	A	
芸術科	美術	<ul style="list-style-type: none"> ・美に対する感性を高め、美しさや良さを感じ取る力や、表現する力をつけ、創造する喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味、関心を引き出す題材と導入 ・造形、道具、画材の基本的な学習 ・作品の理解を深める鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味、関心を引く題材設定と導入ができたか。 ・道具や画材の基本的な使い方をおさえることができたか。 ・作品の理解を深める制作や鑑賞に導けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による得意・不得意が平等になる授業の実践ができた。結果、偏りのない評価ができた。 ・導入を工夫し、興味関心を得られるようにしたが、制作を継続すると次第に飽きてくる生徒が出てきたため、持続させるための工夫が必要である。 	B
	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を通して、生徒の音楽を愛好する精神を築き情緒を育成する。 ・パート練習やグループ練習を通して生徒自ら主体的に取り組む力を育成する。 ・音楽理論・西洋音楽史を通して音楽を知る喜びを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度 ・表現・思考・判断 ・知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲、関心をもって取り組むことができたか。 ・生徒の意欲や主体的な活動につながる教材や助言を与えることができたか。 ・音楽の構造や理論を理解できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した教材の導入を通して意欲関心の高まりを図ることができた。 ・キャリア教育とタイアップした調律師講座の実施等、体験的な学習を積極的に取り入れることによって主体的な学びの実践を促すことができた。 ・理論については、プラットフォームの導入によって定着を図ることができた。構造についてはより効果的な指導支援の方法を検討、実践していきたい。 	B

分掌	活動目標	評価項目	評価の観点	年間評価(成果と課題)	評価
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 英語を理解し、英語で表現する能力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図りながら、生徒個々の目標に応じた英語力を養成するための指導方法の工夫 英語に関連した各種検定資格取得 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なシラバスを研究し、作成することができたか。 基礎基本を定着させ、個々の英語力を高める指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント学習なども取り入れ、生徒の状況に応じて授業形態を工夫することができた。 ALTとのTTを通して、生徒が能動的に英語でコミュニケーションを取ろうとする意欲を高めることができた。 スピーチコンテストや各種大会への参加を呼びかけ、指導をする中で発展的な学習への意欲を引き出すことができた。 中学での既習事項が定着していない生徒も見られるため、基本を確認しながら力を伸ばせるよう、引き続き学び合いの機会を大切にしていきたい。 	B
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが生活課題の解決に主体的に取り組めるよう、基礎的・基本的な知識・技術を定着させるための指導の充実をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが問題意識を持って取り組める学習内容、教材等の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習活動を支援できたか。 学習プリント・実習の内容や教材は有効であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント学習を基本としながら基礎的・基本的な学習を進める中で、問いや課題をはさみながら、自分ごととして考えられるような学習内容を盛り込んだ。 感染症対策を講じながら、調理や被服製作および絵本などの作品作りを通して、体験的な学びとなるよう教材づくりを考えた。 2年生の刺し子作品は、予定より時間を要し、来年度以降の教材を考え直す必要性を感じた。 	B
商業科	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒にビジネスの基礎・基本の能力を身につかせ、社会の変化に柔軟に対応できる資質を育成する。 ②生徒に商業に関連する幅広い資格取得を進め、卒業後多様な進路実現を図るための学力を育成する。 ③松本大学との連携、松本信用金庫との連携、安曇野市との連携を通して学習の充実を図り、相互の教育実践を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総商マーケットなどの実践的教育活動を通してビジネスの基礎・基本の能力を身につかせることができたか。 ・ビジネスに関連する幅広い資格取得を勧めることができたか。 ・産学官との連携を通して、地域と連携した教育、地域を教材とした教育、地域に還元する教育を積極的に行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・身だしなみを整えるなどビジネスマナーの心得を身につけさせることができたか。 ・複数ならびに上位級の資格取得を勧めることができたか。 ・高大連携による学校間交流や地域や地元産業界との連携を積極的に行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年のビジネス基礎や3年の総合実践では総商マーケットを見据え挨拶練習や身だしなみ指導を行っており成果があったが、登下校中や日頃の身だしなみの改善に繋がるような方を生活指導係とも連携していきたい。 ・総商マーケットは、コロナ禍の開催に向けて商業科内でもコンセンサスが得られず、他教科の先生方へ負担をかける場面があった為、次年度以降準備段階から(感染症対策等を取り入れつつ)学習効果が上がり地域からも期待される充実した内容となるよう検討していきたい。 ・コース制を前面に打ち出した教育課程での学習を通して、コースごとに特長ある充実した授業を展開することができた。特に2,3年流通コースでは、地域で活躍する方を継続的に講師として招き、実学を通して学習を深めることができた。 ・検定取得においては7時間目授業や講座別補習を行い、集中して資格取得を目指すことができた。次年度以降更に上位級が取得できるよう科内で検討していきたい。 ・松本大学との連携 大学における授業受講 夏 オンライン開催(3日間) 春 オンライン実施(3日間)予定 ・安曇野市との連携 日商簿記講座 経営シミュレーション研修 3年会計E参加 銀座NAGANOでの販売実習 3年(2/21予定) 今後も産学官と連携した教育、産学官を教材とした教育、産学官に還元する教育を実施していきたい。 	B